

エネルギーのこれからについて考えたい

どうすれば大事な話を大切な人に伝えることができるのか

三遊亭橘也（落語家）
石田章洋（放送作家）

ともすると難しくなりがちなエネルギーの話。静岡放送（SBS）で放送されているテレビ番組「エネばな」では、落語の小噺風にアレンジし、楽しくわかりやすく解説している。今回は、出演者の三遊亭橘也さんと放送作家の石田章洋さんに、人を楽しませるコツ、自分の思い、考えを相手に正しく伝える難しさを語り合っていた。

落語の手法を活かし マクラでひきつけ

エネルギー話に昇華

石田 私は大学在学中に、当時の三遊亭楽太郎（現6代目円楽）師匠の門をたたいたのですが、大師匠（5代目故三遊亭円楽）に「中途半端に逃げ道を作るようではダメ」と言われ、大学を中退して入門したんです。その後、廃業したので、橘也さんとは落語家としての時期は重なっていないんですが、円楽一門会というところで共通している。

橘也 私は、大学卒業後、円楽一門の6代目三遊亭円橋師匠に丸1年かけてようやく見習いにもなったんです。でも正式入門はそれからさ



（さんゆうてい-きつや）1978年静岡県沼津市生まれ。2001年筑波大学第一学群自然科学類卒業（専攻は人文地理学）。派遣社員で食いつなぎながら自己表現の手段を模索する中、落語に出会い、'04年11月6代目三遊亭円橋に入門。'05年1月大師匠・5代目円楽の許可を得て正式に前座となり、同月4日、『十徳』にて初高座。'08年9月二つ目昇進。

らに2カ月後。一門は、大師匠に認められないと前座になれなかったからなんですよ。

石田 お互い5代目とは浅からぬ縁がありましたね。

橘也 でも、仕事を一緒にさせてもらうのは「エネばな」が初めて。

石田 「エネばな」は一言でいうと落語の魅力でエネルギーを楽しく学ぶ番組。午前中の番組なので、視聴者は主に主婦やお年寄り。小噺としてオチをつけながらエネルギーや電気の話を正しく伝えるのって、結構難しい作業なんです。



「エネばな」（毎週水曜日／10:46～10:50）は、2015年9月から静岡放送（SBS）で放送されている。「エネルギー自給率」、「メガソーラーの実力」、「エネルギーミックスって何？」といったテーマを、落語の小噺風にわかりやすく解説しており好評。（ホームページでご覧頂けます。http://www.at-s.com/sbstv/program/enebana/）

エネばな SBS 検索

橘也 なかなか2分45秒という時間内にピタッと収められず、番組制作編集の方にご苦労をかけてます。

石田 周りの反響はどうですか？

橘也 「相変わらず汗をいっぱいかいてるね」とか「黒衣着物以外に持っていないのか」とか、内容と関係ないことが多い（笑）。でも、詳しく聞くと、とても好評です。同じ落語家が聞けば「この話をこうもっていったか。石田さん、うまく料理したな」と感心すると思いますよ。

石田 毎回、「エネルギー自給率」とか「メガソーラーの実力」といったテーマが先にあり、私はそのテーマに合う古典落語のマクラを探して「エネルギー小噺」にアレンジするわけです。見つけたマクラがテーマ

とピタッと合えば、それほど苦労しないですよ。

橘也 だんながカミさんに「隣の家はイモばかり食っているけど、子どもがかわいそうだからコメを持って行ってやんな」と言いつける。夕どきになり「さてウチもそろそろ飯にするか」って言うと、カミさんが「コメはないよ、だつてお隣にあげたじゃないの。」「あれで全部かい？」



(いしだあきひろ) 1963年岡山県生まれ。日本大学法学部を中退し、三遊亭円楽(当時は楽太郎)に弟子入り。三遊亭花楽京として二つ目に昇進するが、ほどなく廃業し放送作家に。「世界ふしぎ発見!」、「TVチャンピオン」、「情報プレゼンターとくたネ!」などを担当。著書に「企画は、ひと言。」「ビジネスエリートは、なぜ落語を聴くのか?」などがある。

肝心なのは最初のつかみ。 本題に入る前に、分かりやすい小噺で みんなの耳目を集める。

そうか、じゃあ、代わりにイモを食おう」っていう小噺が――。

石田 「島国ニッポンの電力事情」の話に変わったりする(笑)。同じ町内で、おまんに困っている人がいれば助け合えるが、島国日本はよその国と送電線が繋がっていないから融通できない、といった感じでアレンジします。

橘也 言うのは簡単だけど、やっぱり大変そう。必要なこと、大事なことを的確にわかりやすく伝えるの

は簡単なことではないですからね。

構えずぎてはダメ

自分をさらけ出せば

話し合う場の空気ができる

石田 人に伝えるという事で何が一番大事か。長年テレビ番組の制作に携わってきて思うのは、「とにかく相手(視聴者)を第一に考える」ということ。ところが伝える方は、

自分はどう言いたい、こう見せたいと、ついつい自分本位になってしま

相手の理解を得るための七カ条

- 一、言葉は短いほど強くなる。
- 二、わかりやすく例えて引き寄せる。
- 三、ベタ(定番)の力を利用する。
- 四、プラスαの「魔法」をかける。
- 五、体裁よりも「インパクト」にこだわる。
- 六、あえてすべてを伝えない。
- 七、落語に学ぶ。

※石田章洋著書『企画は、ひと言。』より

るんです。子どもに「廁かわや」と言つてもわからないので「便所」に言い換えるとか。

「説明は野暮」と落語ではいわれます。しかし、説明しないで伝わらないぐらいなら、野暮でも何でも説明した方がいい場合がある。そういうところは柔軟に対応するようにしています。

石田 話がちよつと難解だったり入り組んでいたり専門的過ぎると、相手の耳をこちらに向けてもらうのは相当しんどい。だから、落語というエンターテインメントを用いた「エネばな」の見せ方は正解だと思えます。難しい話を「落語」という砂糖で甘くくるんで発信できますから。

橘也 ある会社の新人研修で落語を一席やったとき、心が折れるほどスベリ倒したんです。そもそもみんな落語に興味がないさうだし、「橘也って誰?」て感じなので、ウケるわけがない。でも、ある上方の落語家の先輩にその話をすると、「まず相手と友達にならなアカン」と言われました。「何をどう話すかの前に、

こいつの話なら聞いてやってもええかという関係をつくること」が大事や。そしたら、あとは落語が何とかしてくるわ」と。確かに落語は、

「この人の話なら聞いてやろう」と 思わせれば勝ち。

場の空気を作ること、勝負の大半が決まるところがある。「つかみ」という言葉がありますが、まずお客さんの心をつかみ、つかんだら離さない。それが大事なんですね。

石田 電力会社も、情報を正確に伝えたいからといって、構えすぎたり、あれやこれやと盛り込みすぎてはダメだと思えます。

橘也 そうですね。構えたり欲張ると顔も話も小難しくなってしまう。それより、ストリートに自分をさらけ出せばいいんですよ。私も今はできるだけ、「若手なんでスマミセン。今日は勉強させていただきにまいました」というスタンスを心がけています。

相手の声に耳を傾け 賛成できなくても 尊重することが大事

石田 伝えるのが難しいといえば、特に東日本大震災（2011年3月11日）以降、原発問題は非常にデリ



ケートに扱われるようになりましたよね。

橘也 少し極端な気がします。包丁で指を切ったとしても「二度と使うものか」とはならない。切り方を覚えたり、セラミック製にしたり、さまざまな工夫をしていますよね。

石田 危険なものでも、対策をとればいい。便利なものを使わない手は

ないですよ。

橘也 原発にかぎらず、エネルギー問題はもともと知らなすぎたし、知らせなすぎたこともある。だから、すぐに議論が二分し、感情論で語られてしまうのだと思います。

石田 対立の前に、ひざをつきあわせて相手の声に耳を傾けることが大事ですよ。賛成でなくても尊重はすべき。そうすれば少なくとも感情論だけの対立にはならないですよ。

橘也 以前、6代目円楽師匠と楽屋で2人つきりになったとき、「私みたいのはどうすれば売れるようになりますか」とアドバイスを求めると、ひと言、「熱演しろ」。落語ってこんなにおもしろいんだぞと思いがら熱演すれば、落語が好きという気持ちは必ず相手に伝わる。

石田 時々、「エネばな」は視聴者にわかりやすく伝わっているのかな

と不安になることもあります。

橘也 私自身、毎回石田さんの台本が届いて初めて内容を知るわけですが、とてもわかりやすいですよ。だから自分なりの先入観を持たず、「シエールガスって何？」みたいな驚きや言葉の新鮮味を自分の中にキープしたまま収録に臨んでいます。常に「八つあん、熊さん」みたいな気持ちでいた方が、話にも血が通うと思っています。

石田 演出に助けられる部分もありますね。初回のテーマは「エネルギー自給率」だったけど、「6%」という数字をドンと画面に出したのはよかったです。

橘也 インパクトがありました。「あれ？俺の経済的な自給率と同じぐらいじゃないか」って（笑）。

石田 これからも、話の構成が落語の組み立てになっていることと、伝えるべき情報をきちんと伝えるという2点を心がけ、それらをバランスよくミックスして台本に盛り込んでいけたらと思っています。シエールギミックスのようにね。

橘也 うまいことオチましたね。これでは斬家が出る幕がない（笑）

文・構成／丸上直基 撮影／加藤有紀